

# 平成19年度九州産業大学美術館 創造性教育プログラム

## 「障がい者のための写真教室」について

ワークショップたちばなのメンバーと、学生達の一年間の共創活動の様子を紹介します

### □ プログラム内容

九州産業大学美術館では、日ごろ美術鑑賞や芸術活動の機会が少ない障がいのある方を対象に、平成15年より芸術活動を行ってきました。

中でも「ワークショップたちばな」とは、作品鑑賞や、大学構内においてインスタントカメラを持ち、学生と一緒に撮影するワークショップなど、芸術を通して障がいのある人もそうでない人もみんなで一緒に楽しみ、交流できる機会を共創しています。

プログラムの立案は、美術館と学生ボランティアの話し合いを通じて決定していきます。

活動は写真展開催を目標に実施し、6月から月1回の活動を行い2008年1月16日～29日まで、本学芸術学部アートギャラリーにて「ワークショップたちばな写真展2 すまいるフォト日和」を開催しました。展覧会には実施した写真ワークショップ（6、7、9月に実施）の中から学生たちが選んだ写真56点を展示しました。

### □ 実施方法と外部資金導入について

実施日・ボランティア人数の調整、当日のプログラム進行は美術館スタッフが行い、本学芸術学部（写真学科・デザイン学科・芸術工芸学科）の学生がボランティアとして参加し、写真の指導からプリントアウト・展示作業などを行いました。

費用については、本年度は平成19年度文部科学省「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の委託（委託費：441万円）をうけ実施しました。

### ■ 写真ワークショップ（学生ボランティア全員による）

- 6月14日（木） 写真を撮ってみよう！① 雨
- 7月20日（金） 写真を撮ってみよう！② 雨
- 9月12日（水） 写真を撮ってみよう！③ 晴れ
- 9月13日（木） 写真を撮ってみよう！④ 曇り時々雨



撮影時は学生が横でサポートを行います。



学生と一緒に大学を探検しながら撮影スポットを見つけます。



みんなでおしゃべりしながら自由に撮影をします。

### ■ 作品プリントアウト作業（写真学科の学生による）

9月18日（火） 展覧会用写真選び

- 10月2日（火） 作品プリントアウト①
- 10月3日（水） 作品プリントアウト②
- 10月10日（水） 作品プリントアウト③
- 10月16日（火） 作品プリントアウト④
- 10月17日（水） 作品プリントアウト⑤
- 10月23日（火） 作品プリントアウト⑥
- 10月24日（水） 作品プリントアウト⑦
- 10月30日（火） 作品プリントアウト⑧



素敵な作品が多く、学生達は一枚を選ぶのにとっても苦労していました。

写真を大きく引き伸ばす作業。一枚一枚色を確認してプリントアウトが行われました。



### ■ 展覧会チラシ&DM制作（デザイン学科の学生による）

- 9月20日（木） チラシ、DM班打ち合わせ①
- 9月27日（水） チラシ、DM班打ち合わせ②
- 10月4日（水） チラシ、DM班打ち合わせ③
- 10月11日（木） チラシ、DM班打ち合わせ④
- 10月18日（木） チラシ、DM班打ち合わせ⑤
- 10月25日（木） チラシ、DM班打ち合わせ⑥

11月 微調整・校正作業

12月5日（水） チラシ・DM入校

約2ヶ月かけて作り上げたデザインが右の画像。打ち合わせをしながら全て学生が作り上げました。



ワークショップたちばな写真展2  
すまいる  
フォト日和

入場無料

平成20年1月16日(水)  
～1月29日(火)

開催時間:午前10時～午後5時  
休館日:1月19、20、21、28日  
協賛:九州産業大学芸術学部アートギャラリー  
(九州産業大学美術館)  
主催:九州産業大学美術館  
〒816-8501 福岡県糟屋郡宇美町大字1-1-1  
093-8833-1111

### ■ 作品額装&展示作業（学生ボランティア全員による）

- 11月14日（水） 作品額装
- 11月16日（金） 作品額装
- 11月21日（水） 作品額装

2008年1月15日（火） 搬入・展示

1月16日（水） 展覧会初日



一枚一枚水平を確認しての展示作業でした。



キャプションケースは美術館で使用する本格的なケースを使用。

## ■ 展覧会見学（学生ボランティア全員による）

2008年1月18日（水）展覧会見学①、1月22日（火）展覧会見学②

1月24日（木）展覧会見学③、1月25日（金）展覧会見学④



ギャラリーでの展示の様子



みんな真剣な表情で作品鑑賞



鑑賞中は学生の解説もありました



平成19年度文部科学省「総合的な放課後対策推進のための調査研究」 2008年2月29日刊行

# 九州産業大学美術館 絵本の国のお菓子工房

～君も三つ星ねんどパティシエ～



## 《工房案内（企画内容）》

読み聞かせで読まれた絵本に出てくるお菓子を紙ねんどで制作。  
バニラエッセンスなどで香り付けも行い、五感で絵本の世界を体感する。

## 《当日の工房内の様子》



最初は、西南学院大学のお兄さんとお姉さんによる読み聞かせ



読み聞かせが終了すると奥からパティシエが登場！



みんなもエプロンに着替えて、五つ星パティシエによるお菓子教室にチャレンジ！



上手に作れたら、三つ星ねんどパティシエに認定！

## 《開店日時・場所・参加人数》

- ・事業名：福岡市子ども読書フォーラム（15団体参加）
- ・実施日：2007年11月23日（祝・金）
- ・時間：10：00～16：00
- ・会場：あいれび（福岡市中央区舞鶴251）
- ・対象：小学生以上/120名（4名×6班×5回）

## 《当日メニュー（絵本の題名）》

- ☆「おひさまパン」 おひさまパン
- ☆「たんじょうびケーキ」 バーバパパのたんじょうび
- ☆「プリン」 バムとケロのさむいあさ
- ☆「ノンタンクッキー」 ノンタンのたんじょうび
- ☆「クリスマスケーキ」 ぐりとぐらのおきやくさま



## 《photo》

（感想）

- ・子どもが主体となって作ったが、ところどころサポートするという共同作業があったため、お菓子を完成させた時の喜びを一緒に分かちあえた事が嬉しくもあり楽しかった。
- ・衣装を着る事で気持ちが引き締まり、子どもとも打ち解けやすかった。格好の大事さを実感。
- ・「茶色のねんどが、本当のチョコレートか？」と問い詰められて大変だった。『食べられない不思議なチョコレート』と言って何とかチョコレートで通す事が出来た！
- ・お菓子をラッピングをして、それを握りしめて誇らしげな表情をして帰る姿が印象的だった。

## 《五つ星パティシエ達（学生ボランティア）のおはなし...》

閉店後の

（反省）

- ・保護者の対応まで十分に出来なかった。  
→材料の見本や写真など準備するべきだった
- ・絵本と制作の対象年齢に差が出来てしまった。  
→作り方にもう一歩工夫が必要
- ・プログラムの進行に追われ、子ども達とじっくりコミュニケーションを取る事が出来なかった。

